

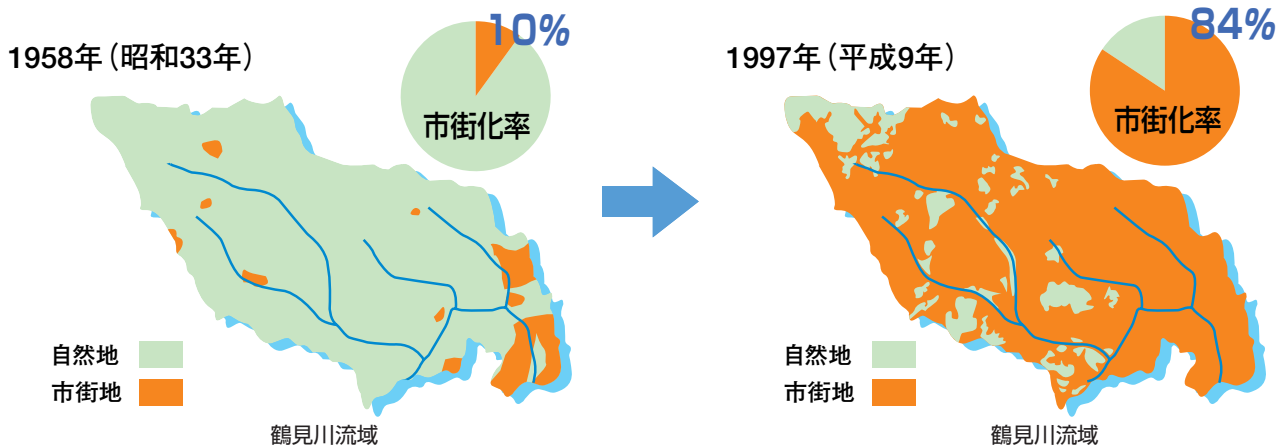
【2】 きめ細やかな治水対策

都市部での課題

昭和30年代から始まった急激な都市への人口、産業、資産の集中や流域における開発によって、流域の保水・遊水機能は低下し、中・下流域の都市部では水害が頻発するようになりました。

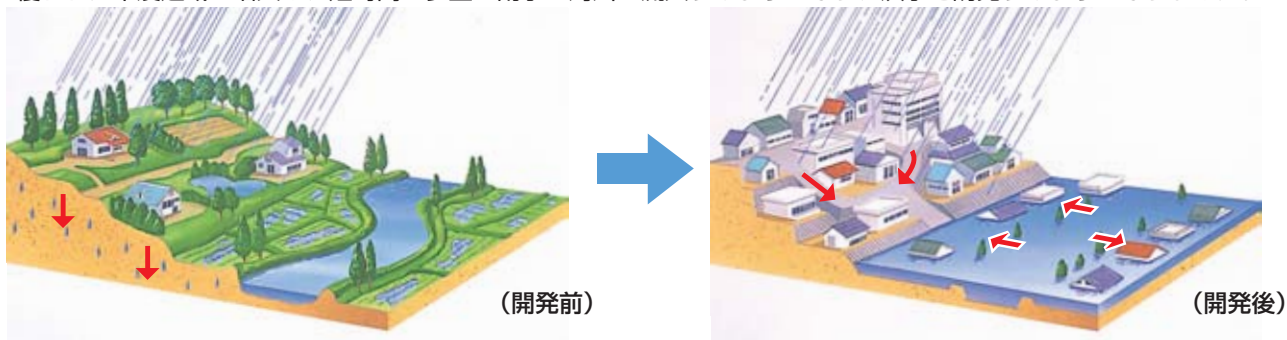
急激な市街化の進展

昭和30年代以降の急激な開発により、流域の大部分が市街化されました。



開発による流出増

開発前は雨水は地中に浸透し、河川には主に表流水(地表を流れる水)が流入していたが、開発によってコンクリートなどに覆われた不浸透域が増大し、短時間に多量の雨水が河川に流入するようになり、洪水を誘発するようになりました。



都市型水害の発生

都市部の河川では、平常時は流量が極端に少ない反面、台風時などに、流域に降った雨水が短時間に集中して流出し、溢水等により都市機能の麻痺や地下街の浸水をもたらす「都市型水害」が多発しています。



神田川 東京都(平常時)



(1993年台風11号時の洪水の状況)

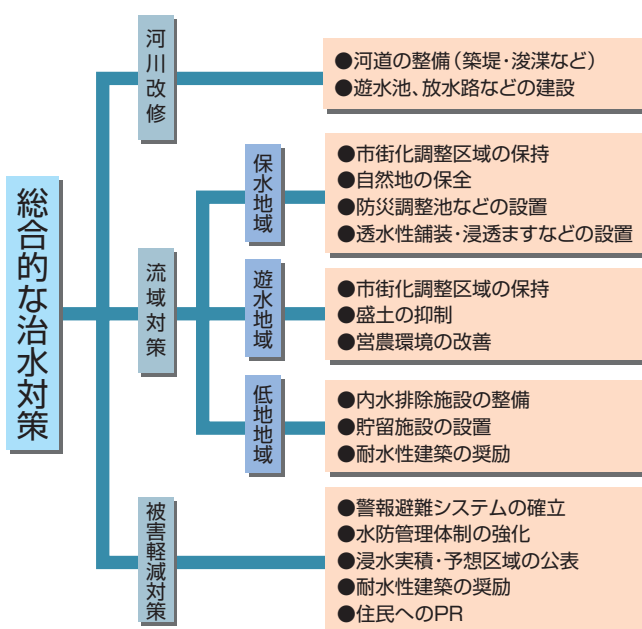
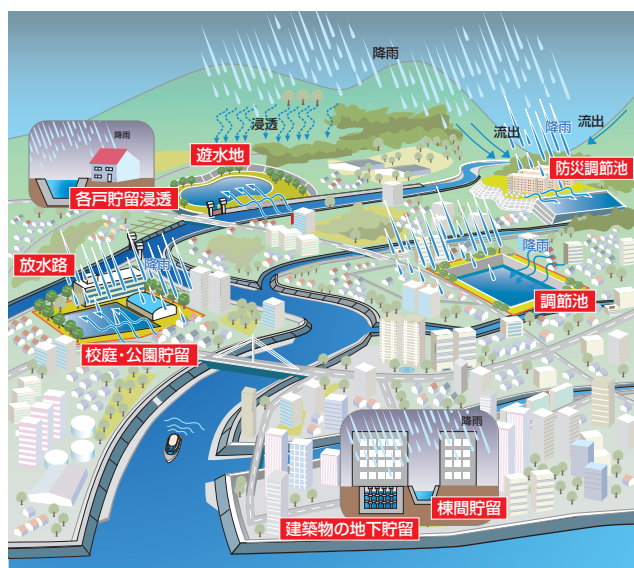
Ⅱ 河川の取り組み

きめ細やかな治水対策

総合的な治水対策

都市部での治水安全度を高めるには河川改修の他に流域対策や被害軽減対策などの総合的な対策が必要です。

総合的な治水対策の概念図



流域対策



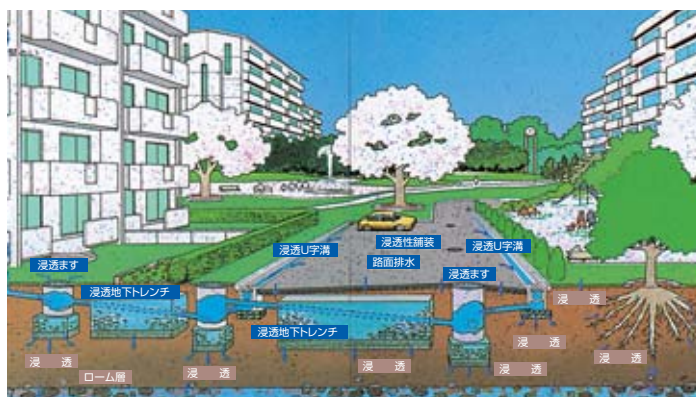
通常はテニスコートに利用している例
（霧が丘調節地・神奈川県）



貯留・浸透施設の整備イメージ

水が溜まった様子（昭和60年6月）

都市化によって、地表がアスファルトやコンクリートで覆われ地面が水を吸収しにくく、保水能力が低下しています。浸透ますなど浸透施設を設置することによって雨水は地中に浸透。その結果、①河川への流出総量が減少 ②ピーク流量が減少 などの保水効果が生まれ、河川への負担が軽減します。



きめ細やかな治水対策

まちづくりと一体的に良好な水辺空間を創出

河川改修にあたっては、洪水防御や利水機能の充実に偏った整備だけではなく、親水性や自然環境に配慮した潤いある河川整備を積極的に推進しています。

安全でにぎわいのある良好な水辺空間の創出



にぎわい空間の創出



河畔の改良 隅田川 東京都 箱崎地区

堤防で河川が眺望できない



生まれ変わった河畔



大規模な土地利用転換 淀川 大阪市 西島地区

大規模な工場跡地



公共住宅等の整備と併せた親水空間の整備

